

**本年度の山行計画が決まりました**

去る3月13日の00会例会において本年度の山行計画を以下のように決めました。皆様のご参加をお待ちしています。

**本年度山行計画**

- 4月04日(水)～05日(木)：区立若洲公園テント泊と東京ゲートブリッジ、担当：佐藤 (実施済み)
- 6月12日(火)～13日(水)：太郎山(2,368m)、担当：山城
- 7月10日(火)～12日(木)：平成の森散策と会津駒ヶ岳(2,133m)、担当：本間
- 10月10日(水)～11日(木)：白砂山(2,139m)、長野・群馬・新潟の県境の紅葉の美しい山
- 12月 忘年山行 仏果山(747m)
- 1月 新年山行 高川山(975m)

**若洲キャンプ場テント泊と隅田川の花見 4月4日(水)～5日(木)**

参加者：酒井、佐々木、綿貫、本間、副島、綾部、吉田、佐藤(記)

若洲キャンプ場テント泊を思いついたのは、今年2月に東京ゲートブリッジが開通し、キャンプ場が隣接したいたからでした。

4月4日、桜の咲く新木場駅に13時集合し、13:31のバスで若洲キャンプ場へ。テント設営後早速、東京ゲートブリッジを往復し3.2kmを散歩した。海面からの高さは最大87.7mにもなり、東京港や都心・スカイツリー等を展望、大パノラマを楽しんだ。丹沢、富士山も確認することが出来た。夜は9時ごろまで歓談する。

5日は10時にチェックアウト、葛西臨海公園から水辺ラインに乗船する予定だったが強風で欠航。やむなく東京テレポート駅まで電車で戻り、お台場水上バス乗り場からヒミコ



東京ゲートブリッジ



東京ゲートブリッジの上で

神社を参拝し、公園の桜を楽しんだ。ここから東京スカイツリーまでは近いので足を延ばす。スカイツリー足元の北十間川は遊歩道が完成してスカイツリーの開業を待つばかりであった。近くで遅い昼食をとり押上駅で解散した。

新技術の結晶としての巨大建築物と伝統的な社寺の町浅草周辺を歩く今回の旅はユニークで楽しい旅になったと思う。

注1) 牛島神社は860年慈覚大師円仁がスサノウ尊を勧請して開基した。東京スカイツリーの地鎮祭はこの宮司がとり行った。

注2) 慈覚大師円仁(794～864)

は最後の遣唐使であり、838～847の間入唐し西安まで7,000kmの巡礼をし、迫害に遭い逃避行を重ねてようやく9年6ヶ月後に帰国することが出来た。この時の旅を綴った「入唐求法巡礼行記」は日本



桜と東京スカイツリー

人による最初の本格的旅行記となった。帰国して854年に天台座主になる。857年浅草寺御前立本尊謹刻する（仏像彫刻にも優れていたようです）。浅草寺

中興の祖となる。この頃浅草寺に数年滞在していたようです。その他中尊寺開基、山寺立石寺開基など数々の足跡を残している。

### 守門岳雪庇鑑賞ツアー 3月24日（土）～25日（日）

参加者：佐藤、副島、山城、本間（記）、他 JAC 多摩支部町田サロン有志

昨年は東日本大震災の為に、守門岳雪庇鑑賞ツアーが直前になって中止となり残念でした。今年は大雪で小屋に泊まれるか心配もしたが、地元の仲間が掘り起こしてくれて予定通り開催の運びとなった。素



来伝口より道院山荘への雪道

晴らしい景色になることを期待して24日朝の上越新幹線に乗った。参加者は00会の佐藤、副島、山城、本間の他に日本

山岳会多摩支部町田サロンで知り合った仲間を加えて11名となった。

10時50分、雨の長岡に到着。迎えのバスで峠を越えて栃尾に入る。峠のトンネルを越えると天気がよければ、守門岳が美しい姿を見せるところだが今日は雲の中だ。5年間単身赴任で過ごした懐かしい町を通り、ファミリースキー場に着く。今年の営業は1週間前に終了しているがまだたっぷり雪が積もっていた。ここで現地の参加者3名加わり、ガイドも含めて総勢15名のパーティーになった。

ここで昼食と登山の準備をして、雨の中バスで登山口の来伝口まで行き、14時ごろスノーシューをつけて歩きだした。雪でうずまっている道路の脇からはカーブミラーの頭だけがのぞいている。3m以上の積雪であろう。2年前に来た時は、一部道路のアスファルトが見えていたのだが今年の豪雪は凄まじいものだったようだ。時折降る雨が雪に変わり、

2時間半ほど歩いて道院山荘に到着。山荘では世話役2人がストーブをつけ、夜の懇親会に向けて料理を準備してくれていた。

夜は豚汁や栃尾名物のあぶらげ、フキノトウ・キノコのでんぷらなどを次々と出してもらい、ビールと栃尾の地酒で盛り上がった。地元の人たちと毎年交流登山が出来たらいいなと小生は思っている。

2日目は、5時起床で朝食を食べ、非常食のおにぎりを各自持って、6時に出発した。曇ってはいたが静かな朝だった。前夜に10センチ程新雪が積もり、全く印のない山道をリーダについてひたすら歩いた。万太郎山をまいて歩くが山頂が見えないのでルートを探すのに地元の人たちは話し合っていた。一寸心配もしたが二分口からのルートに合流して一安心。3時間余りかかって保久礼の避難小屋に着く。

避難小屋では別のツアーも合わせて昼のうどんを準備中だった。慣れない雪歩きで疲れたようで大岳までの登りには山城さんと小生と地元参加の3人とリーダで登った。曇っていた空が明るくなり天気回復かなと思ったが甘かった。保久礼を10時出発、ブナ林の急な斜面を登ること2時間。時折雪が降り、風も出てきた。森林限界を出ると広い大雪原の登りとなり、



保久礼の避難小屋前で

40分程で大岳まで行けるはずであるが、猛烈な風と雪交じりのガスで視界が悪く、12時過ぎに断念して引き返した。先に登っていたスキーツアーのグループも引き返していた。保久礼で温かいうどんを食べて全員で下山。二分口の麓



雪の斜面を尻セード

に近い所では急な斜面を尻セードで滑り下り、童心に帰って楽しんだ。15時に迎えのバスでファミリースキー場に戻り、帰りの荷物をまとめ、帰りのバスは途中「とちお道の駅」に寄ってもらい、皆でそれぞれの揚げたてのあぶらあげを食べた。厚さ1センチ以上あるふかふかの揚げたてのあぶらあげにネギとかつぶしをたっぷりかけて醤油をたらし食べる名物を賞味して雨の長岡駅まで送ってもらった。

### 仙台・石巻旅行記 4月1日～2日

東北被災地を訪ねる旅 佐々木 和夫

東北被災地を訪ねることを思い立ったのは「石巻日赤病院の100日」(小学館発行)を読んだためだ。テレビで見ているだけではよく理解できない。一度現場を見てみよう。同じ思いの友人と出かけることにした。まずどこを訪ねるかを決めるのが大変である。交通機関のどこが不通か、またバスがあるのか、よく分からない。泊まる場所があるのかも不明。

インターネットで災害地を調べるとどこの旅館も災害で営業停止中。結局仙台でホテルを確保し、第一日は名取川周辺。二日目を JR バスで行ける石巻にした。

初日の4月1日は仙台空港よりレンタカーで10号線を北上。すでに被災後1年経過しているので瓦礫が散乱している状況ではないが、ところどころ津波でできた池がある。土台がしっかりしていたためたまたま取り残された数軒の荒れた家を残して、あとは一面広々とした野原に化していた。名取川沿いに川岸の道を下り河口付近の関上港(井上)に出ると、津波で陸上に打ち上げられた舟が数多く散乱し、又港の岸壁はほとんど崩壊していた。当時の津波の激しさが目に浮かぶ。これを復旧するのは大分時間が



崩壊した岸壁

長岡の駅では翌日角田山に行くグループと東京に帰るグループが別れ今回の守門岳雪庇鑑賞ツアーを終えた。雪庇を見ることは出来なかったがまた来年に挑戦したいものだ。

翌日、角田山のミスミ草はまだつぼみが膨らんだ程度で残念だったが好天に恵まれて日本海と佐渡を見ながら快適に歩くことが出来た。

かかるだろう。我々のように現地を視察している何台かの車を除けば人っ子一人いない。次いで西を通る仙台東部有料道路方面に向かうと、道路の土手が



津波に流された船の山

津波を防いだためか土手を境にその西側によく人家が見えるようになったが、一部の家は1階が壊れ2階で生活しているようだ。

名取川を渡り仙台の若林区に入ると海沿いは津波の被害が大きいが、市の中心部に近づくにつれ賑やかな雰囲気になる。仙台の友人の話では、地震の揺れは大きかったが、デパートも1ヶ月程度の休みで営業体制は整えることができたそうだ。街の中心部ではビルの崩壊などの目立った被害はなかったとのことだ。

翌日は朝、駅前より直行バスに乗り70分で石巻に到着。石巻は仮面ライダーやサイボーグの生みの親石ノ森章太郎の石の森萬画館があり、マンガの町として有名である。街の中心部をマンガロードが横切り、街角や駅前にはキャラクター人形が設置されている。旧北上川の河口近くの中洲にある萬画館は津波の被害を受けたものの奇跡的におおきな損傷をまぬかれ、現在秋の開館にむけ復旧中である。駅前よ

りタクシーに乗り、被害が大きかった渡波地区に行く。ここは海岸から800メートルも北に行くくと高い山がある。地震にたいする普段の訓練が行き届いている事業所や家庭は地震当日も整然と山に避難し被害はなかったが、地震慣れしている市民のなかには津波を軽く見て逃げ遅れた人が多い。また学校・幼稚園では先生の指示の違いにより犠牲者を多く出したところもあり、現在裁判沙汰になっているとのことである。タクシー運転手さんが「この辺の人は地震には慣れており、皆スマトラ地震の際の津波をテレビで見ていたのに避難しなかった人が多かった。やっぱりテレビを見るだけではだめですね。」と話していた。

海岸沿岸は30センチほどの地盤沈下があり、自衛隊が土盛りして急造の道路を築き現在は足の確保は何とかなっているが、ここ漁業関連企業・施設がある魚町一帯の再建復興は大変な事だと思う。街の真ん中にある海拔60メートルの日和山から南の海側を見下ろすと、先日ダライラマが訪れた麓の西光寺の本堂は無事だったが、墓石は皆なぎ倒されていた。ところどころ瓦礫や、津波にのみ込まれた

自動車が山の如く築かれており、また漁港及び漁業関連施設や住宅街地区はことごとく津波の被害にあい海岸近くまで荒れ地が延々と続いていた。

山の北側も浸水被害にあったようで、家屋の補修工事が行われていたが、駅に近づくにつれやっと生活の息吹が感じられる。

冒頭の日赤病院は海岸から離れた丘の上にあり、津波の被害はまぬかれたが、この本は震災日から透析患者の水の不足対策や、次々に運び込まれる患者の緊急度に応じた仕訳けと治療、また特に多かった低体温症の人々への応急処置、更に食糧の確保等で、病院医師・看護師・職員全員が連日不眠不休で救助活動にあたる凄まじい100日間の記録だ。ぜひご一読をお勧めする。

帰りは矢本まで仙石線、その先松島までは鉄道不通のためJR臨時バスに乗る。松島で五大堂、瑞巖寺をたずねる。ここは浸水があったと聞くがおおきな被害はなかったようだ。ぼつぼつ観光客が戻ってきている。松島より再び仙石線に乗り仙台より帰京。

1泊2日の忙しい旅であったが、二度と体験できない印象に残る旅行であった。

## 「ピアノの嫁入り」 津波被害の宮古へ行きました

綾部 初江

娘が小さいころ弾いていたピアノ。結婚しても住宅事情が悪くピアノはそのまま私の家に残り、たまに帰省する際、孫のおもちゃになっている。別に珍しい光景ではないのですが、ひとつだけ、変わったことがあった。知人が調律師をしている関係上、年1度のメンテナンスは欠かさなかったことでした。

しかし、いつまでも置いておいても仕方がないので、今はやりの老前整理なるものをしようと、娘に知らせたら、お別れの曲を弾くためにやってきた。

東北で被災し、ピアノを必要としている人に、手入れされているピアノを贈る運動をしているボランティア団体があり、友達がそのようなピアノを探しているという。早速連絡をしたら、翌日には相手先が決まり、配送の日取りの調整と急ピッチで話が進んだが、ひとつ心配がありました。それは確かに調律師はやってきたが、何せ30年も前に買った古いピアノなので、嫌われるのではないかということでした。コーディネーターをしている方に話したら、手入れされていればそんなことはありません。だから

こちらから何年に製造されたかなど聞かなかつたでしょうと、たしなめられました。

送り先は宮古。配送の日程調整を直接した際、その時のことを聞きました。地震のときは家にいた。津波が来るから逃げろの声に着の身着のまま車で高台に逃げた。すぐ後ろに水が迫っていた。残ったのはその車だけだったそうです。今は同じ宮古にいるお母さんの家に身をよせている。娘がピアノを必要としているとのことでした。はからずも、そんな悲惨な体験を直接聞いて、街頭などで行われている募金に協力するのは大きな違いを感じました。

ピアノは横浜、仙台と中継され無事、宮古に着いたそうです。こちらではほとんど触ってももらえなかったのに、毎日弾かれているのだなと思うと”ピアノよ、がんばれ”と応援したくなってしまいます。

細かいことですが、配送費は、貰う側が負担するというのがこの団体のルールだそうで、その費用は行き先が宮古と遠いので、10万円くらいだそうです。

我が家ではほとんど眠っていたものが、役に立っ

てくれれば、それもあの災害の被災者のためなので、とてもうれしく思います。

### 東日本大震災と思わぬ被害

綿貫 誠一

先日、親しくしている友人からメールが届いた。3月11日に東北・北関東を襲った大震災で福島原発の事故が起こり、その放射線による被害が福島県から300kmも離れている神奈川県西部のお茶畑で基準を超える放射線量が測定され、収穫した新茶葉をすべて生産中止にしたとの内容であった。

友人の言うには、基準値の500ベクレルに対し、県西部の足柄茶葉は80~100ベクレル上回ったようだ。その基準値とは新茶の瞬間値。実際新茶を1杯飲む場合、0.003マイクロシーベルトで、人が自然界から1年間に受ける放射能の3,750マイクロシーベルトに比べれば10万分の1にしかならないと学者は説明する。

ちなみに健康診断でレントゲン検査を受けるが被曝しないのだろうか？

何かがおかしい、と皆が思い始めて来た。大きな自然の営みの前に人間の浅知恵のもろさが浮き出て来たようだ「天罰」だと誰かが言ったが、その通りだと思う。

今の日本人のおごりが大事なものを忘れている。又は都合が悪い事を隠してしまう風潮が怖い。

もう一度原点に立ち戻り、戦後の物の乏しい時代、食べることに精一杯だった頃、我々は不幸だったろうか。不自由であっても心は豊かで幸せであったと思う。希望と夢があったと思う。政権を争っている場合ではない。被災地の人々の事を思う時、この人たをないがしろにしてケンカをしている場合か。瓦礫ひとつ1年かかって進んでいないで国家と言えるのか。

国民のことを無視したこの国の政治家は本当にどうかしている。

10年、20年後に答えは出るのだろうか。(4月4日、00会の東京ゲートブリッジを歩いて、近くの区立若洲公園キャンプ場のテントの中で酒を飲みながら、東日本大震災のことを書こうと言う事になり、半年前の思いを書いたものです。4月7日の朝刊に政府は原発稼働に向けて、新安全基準を決定、地元との協議に入る。一方、食品への新基準が4月1日から導入された為、放射線物質強化基準超え続出。農家は風評被害を心配している記事がトップで出ていた。1年過ぎて安全・安心がまだ決まっていないとは・・・)

### <山行予告> 日光太郎山の奇勝と静寂境を訪ねる山行(世話役:山城さん)

新緑の時期に日光中禅寺温泉の民宿に泊まり、1泊2日の予定で山頂からの展望やお花畑、奥日光火山群の荒々しい崩壊地の薙ぎなど、変化に富んだ登山コースを山城さんの案内で楽しみたいと思います。

|        |   |
|--------|---|
| 山行期日   | 平成24年6月12日泊~13日山行   |
| 集合宿泊場所 | 民宿「すぎもと館」TEL; 0288-55-0161 チェックイン時間15:00から<br>日光市中宮祠2480 日光中禅寺温泉バス停3分<br>早朝の朝食と志津小屋方面登山口への送りパック付、昼食おにぎり付<br>費用; ¥8,500  |
| 山行コース  | 6月13日朝7時前までに、裏男体林道の太郎山登山口へ民宿の車で送って頂き登山を開始(健脚向きコースタイム6時間)7:00スタート~7:20作業道終点~10:00新薙~10:30太郎山頂上着(ゆっくり昼食、眺望楽しみ、小太郎山経由)~12:30山王帽子山分岐~14:00光徳温泉側に下山し登山終了。 時間により日光アストリアホテルで入浴、ホテル前バス停から乗車、東武日光駅着解散。 |
| その他    | 携行品は通常の山小屋泊山行に準備するもの1式<br>バス乗車代金; 日光駅~中禅寺温泉¥1,100 光徳温泉~日光駅¥1,600<br>日帰入浴代金; アストリアホテル¥1,000  |

バス時刻 東武日光駅発 14:06、14:36、15:41、16:16 (所要時間約50分)  
光徳温泉発 14:25、最終 15:25 (所要時間約70分)

オプション山行 6月12日午前9時30分東武日光駅前集合：展望と史跡の軽登山—鳴虫山(コースタイム4時間)山行、山頂にて昼食休憩後、含満ガ淵側へ下山、西参道バス停(14:43)から乗車、中禅寺温泉の民宿集合場所へ。

参加希望者は山城さん(0473-65-3218)まで

**〇〇会総会は6月19日(火)午後6時から** J A C 会議室で行います。会議終了後懇親会を行いますので日ごろ参加できないでいる方も是非都合をつけてご出席ください。

### <会員近況>

#### 菊澤会員

写真付のハガキがスイスより送られてきました。1月下旬までヨーロッパは寒波に襲われたようで、2月になってスイスらしい輝かしい冬が戻ってきたと言います。最近の3月26日付けでは24日にツェルマットに戻ったようで、里はすっかり春の景色になったけれどスキー場は今がベストシーズンという、うらやましい文面とマッターホルンの写真が添えられていました。

4月も半ばになり、もう日本に戻られたかもしれませんが冬期のスイスの話をまたみんなで聞きたいものです。



#### 三渡会員

ネパール第2の都市ポカラの北に聳えるアンナプルナ山群、1950年6月M. エクゾークによって登頂された「処女峰アンナプルナ」は人類初の8,000m峰です。世界の岳人が憧れる名峰の連なるこの山麓を約1ヶ月かけて一巡するトレッキングを三渡さんがリーダーで進めています。今回はマルシャンディコーラを遡行し、山群一番のトロンパス峠(5,416m)越え、ムクチナート、ジョムスンへのコースで、現在9名、9月26日の出発は決まったと云う事です。さらに来年春にアンナプルナIV峰を目指したいと云う強い願望があるようです。その調査も含めて良いトレッキングであることを祈っています。そして景色と旅の話を聞けることを期待します。

### 編集後記

- ・ 東日本大震災&福島原発事故の悪夢から1年を過ぎました。今回は区立若洲公園のキャンプでの話題の中で大震災にまつわる話を3人の方に書いて頂きました。遅々として進まぬ瓦礫処理、報道に飽き足らず現地を自分の目で確認に出かけた方々と、処分しようとしたピアノが津波被災家族に迎えられその音で元気づけられているだろう事・・・山とは関係ありませんが紙面を割かせて頂きました。
- ・ 区立若洲公園でのキャンプは快適でした。今度は孫を連れてこようと云う人もいました。ゲートブリッジの脇の釣り場で糸を垂れるのもいいなと思いました。翌日の隅田川クルーズと花と東京スカイツリーも素晴らしい行程でした。でも大きな荷物に「何処へ行くの?」とずいぶん声をかけられたのにはちょっと困りました。世話役ご苦労さまでした。
- ・ 例会は、原則毎月第3火曜日、午後6時(30分早めました)よりJ A C 会議室で行います。5月15日、6月19日に行います。